

臨床放射線



Japanese Journal of Clinical Radiology

Vol.57 No.13
2012

特集

骨軟部・頭頸部 最新情報2012





がん放射線治療と看護の実践 部位別でわかりやすい! 最新治療と有害事象ケア (第1版)

井上俊彦 山下 孝 齋藤安子 編

がん放射線療法看護認定看護師の日本看護師協会への登録者は100名を超えて、これから多くの施設で取得者が活躍すると期待される中で本書が出版された。執筆陣は、看護師に女性が多いのは当然としても放射線腫瘍医にも女性が多く、表紙のデザインやマゼンダ系の2色刷りと相まって、とても華やかでソフトな雰囲気である。また、文章も項目別に整理され、図表が多用されており読みやすくなっている。しかし、その内容は学術的にハードかつ豊かなもので、放射線治療だけでなく他のがん治療にも及び、総合的ながん治療の知識が得られる。

内容は第1章総論と第2章各論からなり、総論ではがん治療の総論、放射線生物学・物理・疫学と共に看護からみたキュアとケアが取り上げられている。このように放射線治療看護のバックボーンとなる知識が系統的に理解しやすい表現で記載されている。第2章各論は1節の疾患別の放射線治療を主とした治療法と2節の臓器別の看護に別れており、最後に用語解説と資料が付いている。

患者数が多く最もケアを必要とする頭頸部癌に関しては、1節の放射線治療では化学放射線療法やIMRT、IGRT、小線源治療が述べられ、さらに疾患別の治療から照射法・線量・予後まで及び、看護ケアに必要な知識が得られる。これに対して2節の口腔・咽頭・皮膚ケアでは治療前・中・後にケアを分類し、唾液腺・味覚・う歯や下顎骨壊死などの項目を、従来の成書にはない充実した内容で記載している。さらに頭頸部癌の治療ではいつも悩まされる皮膚炎についても充実した内容で記載されている。

骨転移は実際には多くの症例があり、疼痛など患者にとって切実である。そして放射線治療の果たす役割が大きい割りに成書ではあまり取り上げられない項目だが、本書では充実した内容が書かれている。それは治療の意義から移動の介護にまで及び、骨転移のケアが緩和医療の最前線に立つ看護師にとって大きなテーマであることを納得させられる。このように充実した本書は「この1冊にがん放射線療法看護のすべてが網羅されている」と評価しても過言ではない。

以上述べたごとく、放射線治療の実際や具体的なケア法を部位別にわかりやすく学べる点では今までにないものである。特に放射線治療の看護・ケアでは最初に患者心理が取り上げられており、従来の本ではあまり取り上げられていない緩和治療やケアに十分なスペースが設けられていることは特筆すべき点である。また、看護計画・クリティカルパスの章があり、付録に用語解説やパンフレットなどの資料もついて実用的で便利である。

看護師のみならず若手医師・放射線技師にも役立つ実用書である。

[B5判 328頁, 定価 3,990円 (税込), 金原出版刊]
評 齋藤 勉 (日本大学板橋病院放射線科)